

# 19年度事業報告書

(平成19年9月1日から平成20年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

## (1) 事業活動の状況

フードバンク関西は、平成15年2月から約1年間の準備期間を経て、平成16年1月20日兵庫県知事の認証を得、同月26日特定非営利活動法人格を取得し、法人として活動を開始しました。去る平成20年8月31日をもって第5期会計年度を終了する事が出来ました。

当法人は、食品関連企業等から余剰食品を回収し、社会福祉施設や生活弱者の自立を支援する福祉団体にこれら回収食品を無償分配する事により、これら福祉団体を支援することを目的として、芦屋市呉川町に主たる事務所兼倉庫、尼崎市南清水に倉庫を構え、事業を展開しております。

この活動を通して、食べ物として美味しく栄養もあり安全な余剰食品の有効活用を図ると共に、生活弱者を支える福祉団体を支援することにより、互いに助け合い、より多くの人々がより豊かな生活を楽しむことができる社会の実現に寄与したいと考えています。また、若干なりとも、産業廃棄物として焼却処分される食品の量を減ずる事により環境保全にも貢献する事を願っています。

## I 余剰食品の回収と福祉団体への無償分配事業について

当期、フードバンク関西は、この活動の協働者として新たに11社と食品の引き取りについての確認書の交換を行い、9社から実際に余剰食品の無償提供を受け始めました。本年度末の時点でフードバンク関西に食品の無償提供をして下さる企業は合計15社と1団体になりました。従来取り扱っていた、米、パン、野菜果物、鶏肉加工品に加えて、和菓子、米菓、トマトケチャップ等ソース類、チョコレート菓子、春雨、チーズ、スープ類が新たに受け取り団体へ無償分配できる食品の仲間入りをし、内容の一層の充実が図れました。提供される食品が賞味期限内である事は勿論のこと、品質も申し分なく優れており、商品イメージを大切にしている企業が、フードバンク関西を通じた社会貢献を選択した結果と考えられます。

本年度フードバンク関西が取り扱った食品の総量は92.5トンで、前年度より19トン増加しました。取扱食品の品質、量がともに向上している事を、フードバンク関西スタッフ一同、とても心強く感じております。

私達がデリバリーする余剰食品を食べ物として有効に活用して下さる福祉団体も増加し、年度末時点で35団体を数えております。団体の活動内容も、障害児と健常児の混合学童保育所、児童養護施設、心身障害者通所作業所、共同生活ホーム、母子緊急生活支援施設、在宅老人介護団体、老人給食グループ、ホームレス就労支援団体、ホームレスへの炊き出しグループ等、多岐にわたっております。今後、食品の供給量の増加が予測されるので、これに見合うより多くの福祉団体を仲間に加える事が可能と推測されます。

またこの事業を担う無償スタッフの数も増加し、食品のデリバリー作業に加えて、食品の検品、仕分け、分配先を決める作業に従事するスタッフが事務所で仕事をする時間も増加しました。

## Ⅱ この事業への評価について

2007年11月19日付けで念願の認定NPO法人格取得ができ、12月から認定特定非営利活動法人フードバンク関西となる事が出来ました。これにより、当法人への寄付や物品寄贈は所得控除の対象となり、フードバンク関西に寄付して下さる方々は税の優遇措置を受けることができます。これにより、フードバンク関西はその事業内容の公益性と運営の公正さが証明され、より信頼度が増したと自認しております。寄付を受けやすい団体になったことの顕著な効果は未だ出ておりませんが、これを機に、フードバンク関西の事業をより多くの方々にご理解いただき、賛助会員が増える事を期待しています。

昨年度から報道関係者が当法人の活動に関心を示し、本年度も新聞、テレビ局の取材を度々受けました。中でも主要新聞数社の紙面に複数回にわたって活動紹介記事が掲載された結果、企業からの問い合わせが増加する等反響が大きかったこと、共同通信の取材を受けた結果、全国の28にも及ぶ地方紙に記事が掲載されたことは大きな成果でした。6月にはテレビ大阪制作の「ボランティア21」という番組で30分にわたり丁寧な活動紹介がされ、広く一般の方々に活動を知っていただくよい機会となりました。

2008年1月、ボランティア21元気アップコースで元気アップ大賞を受賞しました。「日本におけるフードバンク事業の方法の確立、兵庫県内の活動拡大のため新たにフードバンクを試みる団体を支援する」を主な企画として、活動紹介を行いました。一般公開された第2次審査では、プレゼンテーションに合わせてボランティアが日々デリバリーで扱っている食品を会場に持ち込みアピールしたことが効を奏し、次点候補に僅差での大賞獲得でした。

2005年5月から開始した当法人のホームページが、検索エンジンの上位を維持し続けており、フードバンク関西の活動を紹介する媒体として非常に効果的に機能しています。それを見た企業やボランティア希望者からの問い合わせが多くあり、すぐ手が届く情報伝達の媒体として、さらにアピール力のあるホームページ作りを継続したいと考えます。

## Ⅲ ふれあい工房悠について

毎土曜日に事務所で行っている「ふれあい工房悠」では、私達が平素取り扱っている余剰食品を食材としたランチの試食会を2006年5月から開始し、今も継続しています。事務所に出入りするスタッフや食品を受け取りに来る福祉団体関係者と語り合い、食品の搬入や搬出の作業を手伝う等、フードバンク関西の活動に関心をもつ方々の見学の場として、また地域の皆さんとの交流の場として、さらに余剰食品を食材としたランチを試食することで、「勿体ない」を身をもって体験する有効な場となっています。

本年度は認定NPO法人格を取得することにより運営経費の安定確保の道が開け、助成金依存からの脱却を期待した年でしたが、残念ながら支援金の増加は期待通りとはいかず、課題として持ち越されました。

企業から無償供給される食品の種類と量の増加、品質の向上が図れた事により、食品の供給については順調な発展を遂げました。食品を受け取って有効活用して下さる福祉団体への支援活動も実績を積み上げています。

フードバンク関西は、NPOが余剰食品を抱える企業と乏しい経費の中で生活弱者を支えるため必死の努力をする福祉団体のつなぎ手として「金銭が介在しない食べ物の新たな流通システム」の実質の作業を担い、その必要性と公益性を、実績により証明しつつあると自認しています。ただこの事業の運営費の安定確保の確立が大きな課題として残っています。

フードバンク関西に関わって下さる皆様のさらなるご理解とご助言、ご支援をお願い申し上げます。